

コード No. 18771

Anti-Cre recombinase Rabbit IgG Affinity Purify

容量 : 50 µg

-
- はじめに : Cre リコンビナーゼは、分子量 38 kDa のバクテリオファージ P1 由来の酵素タンパク質で、loxP 部位と呼ばれる 34 塩基対の配列を認識して 2 箇所の loxP 部位の間の特異的な組換えを触媒します。近年のコンディショナルジーンターゲットティングにおいて、いわゆる Cre - loxP システムとして種々の遺伝子変異マウスを作製するために広く用いられています。
- 免疫抗原 : Cre recombinase の中央部分合成ペプチド (MLHRRSGLPRPSDSDNAV)
- 精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA、0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 50 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定
: 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 2~5 µg/mL にて使用可能
(ホルマリン固定・パラフィン包埋切片ではマイクロウェーブ処理 (10 mM クエン酸緩衝液 pH 6.0, 10 分間))
: ウェスタン・ブロットティング 1~3 µg/mL にて使用可能
- 特異性 : ウェスタン・ブロットティングにて確認

コード No. 18771

Anti-Cre recombinase Rabbit IgG Affinity Purify

容量 : 5 µg

-
- はじめに : Cre リコンビナーゼは、分子量 38 kDa のバクテリオファージ P1 由来の酵素タンパク質で、loxP 部位と呼ばれる 34 塩基対の配列を認識して 2 箇所の loxP 部位の間の特異的な組換えを触媒します。近年のコンディショナルジーンターゲットティングにおいて、いわゆる Cre - loxP システムとして種々の遺伝子変異マウスを作製するために広く用いられています。
- 免疫抗原 : Cre recombinase の中央部分合成ペプチド (MLHRRSGLPRPSDSDNAV)
- 精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態 : 1 % BSA、0.05 % NaN₃ 含有 PBS 0.1 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 0.1 mL 添加(この時濃度は 50 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 2~5 µg/mL にて使用可能
(ホルマリン固定・パラフィン包埋切片ではマイクロウェーブ処理 (10 mM クエン酸緩衝液 pH 6.0, 10 分間))
: ウェスタン・ブロッティング 1~3 µg/mL にて使用可能
- 特異性 : ウェスタン・ブロッティングにて確認